

「安部先生を偲んで」

安部一成先生が一昨年（平成23年）10月25日に亡くなりました。1927年生まれでしたので、84歳で天寿を全うされました。

先生はその生涯を研究・教育・社会貢献活動に注いで来られました。その中でも山口大学経済学部には39年の長きに渡って勤務されていました。先生は山口大学経済学部の前身である山口経済専門学校を昭和22年3月に卒業されました。その後、神戸経済大学（現神戸大学）を卒業（昭和26年3月）後、昭和26年4月に山口大学経済学部助手として採用されました。その後、昭和29年9月に講師、昭和31年11月に助教授、そして昭和42年4月に教授となられ、その間に評議員（17年間）や学部長・大学院経済学研究科長（3期6年間）を勤められました。大学院経済学研究科（修士課程）の設置、並びに「国際経済学科」と「経済法学科」の創設も先生の功績の1つです。

研究者としての安部先生は「経済成長論」及び「産業組織論」の専門家として、同分野における独創性に富む業績を残されました。産業組織、産業構造、大企業の行動方式などの解明を元にして、経済成長のメカニズムの理論的な研究を進める一方において、ダイナミックな展開をたどってきている戦後日本経済の動態分析を追求して、注目すべき成果を上げられました。さらに、産業組織論との関係で中小企業の存在と発展の条件を、実証に基づいて明らかにし、望ましい中小企業政策を具体的に提言されていました。

また、教育に対しても非常に熱心な先生でした。ゼミナールを瑠璃光寺五重塔近くの「洞春寺」で開催されたり、また安部先生のご友人で高名な研究者を招待されたりして学生に対して刺激を与えておられました。また、先生は研究者の育成にも力を注いでこられました。その中でも本学部の教員であった中尾訓生先生や瀧口治先生の名前を忘れることはできません。

最近の経済学部にも外国人留学生が多いのですが、安部先生は在職時、特に中国の留学生のお世話をされていました。また中国の大学との交流を促進されました。山東大学客員教授および復旦大学顧問教授も務められました。当時は山口市内に留学生を受け入れてくれるアパートが少なかったこともあり、熱心にアパート探しをされていた時期もありました。また、山口市と山東省のある済南市との友好関係の増進に貢献され、平成14年10月に済南市より名誉市民の称号を授与されました。

安部先生は本学を退職（平成2年3月）後は平成2年4月西南学院大学経済学部教授（平成7年1月退職）、平成7年2月東亜大学大学院教授及び東亜大学長（平成12年3月退職）、そして平成16年8月萩国際大学理事長（平成17年8月退職）などを歴任されました。

先生は学外でも活躍されておりました。その1つは昭和49年に先生が中心になって「地域発展計画研究者グループ」を結成されたことです。これは、地域産業の振興と産業政策を検討し、県内外の多くの研究者を統合して、学際的な調査・研究を推進し、提言を行うことを目的にして創設されました。この組織は昭和63年4月に社団法人地域発展計画研究者機構となり、安部先生は事務局長に就任、平成6年4月には理事長に就任され、同機構の活動の中心的役割を果たされました。

2つめは1968年に設立された山口県原爆被爆者支援センター「ゆだ苑」理事長（1993年より2008年まで）として原水爆禁止運動や山口県の被爆者支援のために尽力されたことです。

3つめは山口県を中心とした各種委員会委員を数多く歴任されたことです。たとえば、産業構造審議委員会委員、国土審議会中国地方特別委員会委員、山口県大規模小売店舗審議会会長を歴任され、そして山口県の第3次・第4次・第5次長期展望の策定においても貢献されました。

さらに、山口老年総合研究所所長として老年に関わる活動をしておられました。小生も「ゆだ苑」や山口老年総合研究所の関係で先生とご一緒する機会が多かったのですが、少なくとも亡くなる2年前までは新山口駅や新下関駅の階段をまことに「かるやかに」歩かれていた姿を忘れることはできません。

私は講師として1984年に赴任しました。安部先生の御退職が1990年でしたので、先生の在職中に指導を受けるという幸運に恵まれました。さらに先生ご退職以降においても色々な機会に安部先生と御一緒する機会がありました。多くの安部門下生の方々、および関係の深かった先生方を代表して、安部先生こそ山口大学経済学部にとって正に「中興の祖」と呼ぶに相応しい方であったと言わせて頂きます。

先生の御功績を記念してここに「安部一成先生追悼記念論文」が出版されることをお慶び申し上げます。

平成24年6月30日

山口大学経済学部長 中 田 範 夫